独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災ネットワーク推進事業

文化財防災のための市民と協働する文化財調査モデル事業報告書

九州国立博物館

独立行政法人
国立文化財機構

国立文化財機構
文化財防災ネットワーク推進室

KYUSHU NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館

独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災ネットワーク推進事業

文化財防災のための市民と協働する文化財調査モデル事業報告書

九州国立博物館

独立行政法人
国立文化財機構

国立文化財機構
文化財防災ネットワーク推進室

KYUSHU NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館

刊行によせて

平成26年度に始まった「文化財防災ネットワーク推進事業」は、本年度で５年目を迎えました。昨年も頻発する地震や台風などの自然災害により、各地でさまざまな被害が発生しました。災害時の対応についてのあり方を考えていく必要性と同時に、日常的な防災や減災に対する取り組みの重要性もますます高まっているということができるでしょう。

本報告は、地域の文化財防災体制構築のためのモデル策定事業として、平成27年度より実施してきた福岡県うきは市での文化財サポーター育成講座についてまとめたものです。

文化財の保全のためには、その所在場所や内容を把握しておくことが大切です。平時に悉皆調査を行ない、いざという時に備えておくことが有益ですが、民間に所在する膨大な資料の調査は、所蔵者自身はもとより地域の文化財担当者の力を得たとしても、とてもまかないきれるものではありません。そこで、地域住民の協力を得ながらこうした作業を進めることで、情報の収集、人材の育成、文化財に対する関心の高まりと地域における連携といった側面が強化されることを期待し、本事業の取り組みが始まりました。

４年間にわたる作業で実施できたことは必ずしも十分とは言えず、今後への課題も多く残されています。しかしながら、この取り組みを通じて、地域の方々との新たなつながりが生まれ、また文化財防災に対する意識の高まりがうかがえたことは、大切な成果であると思います。本事業での取り組みが、今後の各地での防災や減災の一助となることを願ってやみません。

本事業の趣旨にご理解をいただき、ご所蔵の文化財調査に長期間ご協力をいただいた河北家御当主の河北宣正氏をはじめ、実際の作業に大きな力を発揮していただいたうきは市教育委員会、同市の文化財サポーターの皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

平成31年３月

九州国立博物館長　島谷　弘幸

刊行によせて

うきは市浮羽町山北にある河北家は平成27年に文化防災ネットワーク推進事業における活動対象に選定され、地域の歴史遺産保全活動を目的とした事業を九州国立博物館指導の下、取り組んでまいりました。河北家は安土桃山時代より現在の地に暮らす旧家で、政治、教育、産業等、どの分野のうきはの歴史を紐解いても河北家の名前を見ることができます。このように長い歴史を持ち、多方面に活躍した河北家には現在まで多岐にわたる文化財が伝えられてきました。しかしながら、その文化財の全容は未だ明らかではありません。毎年のように全国各地で災害が起こる近年、このような未指定の文化財をどう把握し扱っていくのか、うきは市のみならず、全国の市町村で抱えられている課題だと思います。文化財防災ネットワーク事業はその課題解決の方法であり、平時の悉皆調査の重要性を学ぶことができるものでした。

また、悉皆調査を市民の方と行なうことで、地域の歴史への理解がより深まり、愛郷心が育まれる過程は、地域の文化財が持つ役割を改めて確認するものでした。文化財が市民の皆様の心の拠り所の一つとして機能することになれば、望外の喜びです。

最後になりますが、本事業のご指導をいただきました九州国立博物館、ならびに講師の先生方および福岡県、また事業に参加いただいた市民の皆様にお礼申し上げます。そして４年にわたり、当事業にご協力いただきました河北家ご当主河北宣正氏に厚くお礼申し上げます。

平成31年３月

うきは市教育委員会　教育長　麻生　秀喜

目　次

CONTENTS

P. 2　**刊行によせて**　九州国立博物館・うきは市教育委員会

P. 6　**文化財防災ネットワーク推進事業の趣旨と経緯**

第 1 部 事業実施報告

第 1 章　文化財防災のための市民と協働する文化財調査モデル事業の概要　P. 8

1．事業の位置づけ
2．事業名称
3．事業実施の経緯・目的
4．目的達成のための手段
5．事業内容
　(1)　実施体制
　(2)　実施対象
　(3)　文化財サポーター育成講座の開講
　(4)　事業担当者

第 2 章　文化財サポーター育成講座　P. 11

1．講座開講までの具体的なプロセス
　(1)　資料の選択・搬出
　(2)　受講生の募集
2．講座内容
2．1　講義概要
　(1)　講義題目と講師
2．2　実習概要
　(1)　体制
　(2)　調書について
2．3　テーマ別の講座内容
　(1)　日用品・記念品・贈答品類の整理実習
　(2)　絵画（掛物）の講義・実習
　(3)　文献資料の講義・実習
　(4)　陶磁器の講義・実習
　(5)　刀剣類の講義・実習
　(6)　蔵出し実習

第３章　調査対象資料の管理とその後の取り扱い　P. 20

１．所有者宅から保管場所へ（搬出・蔵出し）
２．保管
３．保管場所から所有者宅へ（返却・収納）
４．その後の管理について

第２部 総括

第１章　事業の評価と課題　P. 24

１．評価
２．今後の課題

第２章　地域の文化財等防災体制構築のためのモデル策定事業について　P. 26

１．うきは市と河北家について
２．文化財サポーター育成講座と受講者の様子
３．終わりに変えて

資料編　P. 30

１．調書フォーマット
２．活動概要一覧
３．アンケート調査回答まとめ
　⑴　平成27年度
　⑵　平成28年度
　⑶　平成30年度

凡　例

・本書は、独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進事業として、九州国立博物館が平成27～30年度に福岡県うきは市にて行なった事業内容をまとめた報告書である。
・本書は文化庁の「平成30年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」の補助金を得て刊行した。
・本書は、第２部第２章を生野里美（うきは市教育委員会）、それ以外を小川香菜恵（九州国立博物館）が執筆した。
・本書の編集は、原田あゆみ・小川香菜恵・小泉惠英・木川りか・秋山純子、大脇陽子（以上、九州国立博物館）が担当した。

文化財防災ネットワーク推進事業の趣旨と経緯

平成23年３月に発生した東日本大震災では、地震や津波によって被災した文化財や、原子力発電所の爆発事故によって強制避難が実施された地域に取り残された文化財を救出すべく、文化庁の要請により「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」（独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所を事務局とする）が組織され、文化財レスキュー事業が実施された。この救援委員会は、平成25年３月に２年間の活動にひと区切りをつけて解散したが、今後発生が予想されるあらゆる自然災害に対する備えとしてその枠組みを維持し、平成26年７月からは新たに文化庁の文化芸術振興費補助金（美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）を活用した、文化財防災ネットワーク推進事業が立ち上がった。

国立文化財機構は文化財防災ネットワーク推進本部を設置し、その下に推進室を置いて機構内各施設の研究員を室員として兼務させ、平時の段階で関係諸機関とのネットワークを構築するためのさまざまな活動を展開している。

文化財の防災は、事前の備えによって災害時に被害を出さないことが最も望ましく、不幸にして文化財に被害が出た場合にはそれを最小限に止め、適切な専門性を持った人材を派遣し、迅速な行動により被害状況の把握と救出活動の設計・実施を進めることを目標とする。

本事業は、これを実現するために、文化財防災のための技術的な課題についての調査研究を進め、有効な方法の啓発を広く行ない、前述のネットワークを総合的に結合・機能させることにより、国立文化財防災体制の確立を目指している。

第１部

事業実施報告

第１章
文化財防災のための市民と協働する文化財調査モデル事業の概要
第２章
文化財サポーター育成講座
第３章
調査対象資料の管理とその後の取り扱い

第１章
文化財防災のための市民と協働する文化財調査モデル事業の概要

1. 事業の位置づけ

当事業は、美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業（文化庁）の「文化財防災ネットワーク推進事業」の一環として、平成27（2015）年度～平成30（2018）年度に九州国立博物館が実施した。

2. 事業名称

当事業の要項上の事業名称は「地域歴史遺産保全活動コーディネート事業」（平成27年度）、「地域の文化財等防災体制構築のためのモデル策定事業（うきは市）」（平成28～30年度）である。

3. 事業実施の経緯・目的

文化財や地域歴史遺産の保全には、その所在や内容といった基礎情報を把握することが肝要であり、不幸にして文化遺産が被災した際、その情報は迅速なレスキュー活動にとって非常に有効なものとなる。しかも、それらの調査は非常時ではなく平時に行なわれ、整備されていることがなにより望ましい。しかしながら、民間に所在する文化遺産は大量に存在し、その作業を余力を持って行なえる自治体や文化財関係組織はほとんどないといってよいだろう。この問題を解決するひとつの方策として、調査指導者とともに実作業を支える担い手が必要と考え、そのような人材を市民の中に育てるためのモデル構築を目的とし、本事業を立ち上げた。

本事業の実施にあたっては、文化財防災の趣旨にご賛同いただいた福岡県うきは市ならびに、同市に所在する河北家御当主・河北宣正氏のご協力に拠るところが大きい。

4. 目的達成のための手段

人材育成の手段として、市民を対象とした「文化財サポーター育成講座」を開講し、専門家による指導を受けながら文化財の取り扱いを学んでもらう機会を設けた。講座では具体的な方法論のみならず、文化財に接する際の心構えや調査成果に基づく研究活動、文化財防災についての講義も行ない、ハード（技術・手）、ソフト（思考・心）の両面から受講生が専門家と同等のスキルを獲得できることを目指した。

5 . 事業内容

(1)　実施体制

主　　催	九州国立博物館、福岡県教育委員会文化財保護課、うきは市
事 務 局	文化財防災ネットワーク推進事業（九州国立博物館）

(2)　実施対象

福岡県うきは市および同市に所在する河北家御当主・河北宣正氏（以下、所有者）のご協力を得て、同家の所有する資料を対象に、同市内において文化財サポーター育成講座を開講した。

うきは市は、平成17年３月20日に浮羽郡吉井町・浮羽町が合併して成立した福岡県南東部に位置する人口約３万人（平成27年度時点）の街である。市の北部には筑後川が流れ、南部には耳納連山を抱く自然に恵まれた地域であるが、街の歴史を紐解くと、古くから災害、特に河川の氾濫による水害が起こりやすい地形でもある。実際に、平成24年７月九州北部豪雨災害では、家屋の全半壊や犠牲者を出す大きな被害を受けた。

河北家は、一部の住居が国の登録有形文化財「楠森河北家住宅」として知られ、周辺住民にとっても古くからある名家として親しまれている。同家には美術・工芸品、民具、古文書等の文化財が数多く伝えられてきたが、これまで特定の分野の専門家によって部分的に調査されたのみで、その全体像はまだ明らかとなっていない。加えて、同家はこれまでに水害等の被害を受けている。このような状況を鑑み、その文化財の全容を把握することが重要とされてきた。

また、同家住宅の一部は登録文化財に指定されているが、その中に存在する動産文化財[1]については指定対象となっておらず全容が把握されていないため、万が一建物が被災した場合、屋内の動産文化財は滅失する恐れがある。これは同家に限ったことではなく、歴史的建造物の中に収められ伝えられてきた文化財で、特に未指定のものについて起こりえる問題として広く認知されている。建造物の中に収められた動産文化財は、建造物と同じく地域の歴史文化を伝えるものであり、これらの保全活用モデルの構築も急がれている。本事業によって建物内部の資料を把握することにより、この問題解決の一助になることが期待される。

(3)　文化財サポーター育成講座の開講

講座は専門家による講義と実習とに分けて、平成27年度から毎年実施した。

講義では、地域に残る文化遺産を調査する意義を知り調査に臨む姿勢についての学習、文化財の取り扱い方法の学習を目的とした。文化財の取り扱い方法については、各分野の専門家を講師として招き指導を行なった。

実習では、悉皆調査手法の学習を目的に、対象資料の蔵出しや調書作成作業を実施した。

[1] 所在を移動させることができない不動産文化財（住宅や橋などの建造物、遺跡等）に対して、所在を移動させることができる文化財（絵画、陶磁器など）のことを動産文化財と呼称する。

実施期間	〈平成27年度〉　平成27年11月２日～平成28年２月15日　全４回 〈平成28年度〉　平成28年６月３日～平成29年２月27日　全７回 〈平成29年度〉　平成29年10月16日～平成30年３月５日　全６回 〈平成30年度〉　平成30年５月28日～平成30年12月17日　全８回
受講生数	〈平成27年度〉　16名　〈平成28年度〉　20名 〈平成29年度〉　17名　〈平成30年度〉　17名
会場	〈平成27・28年度〉　うきは市立図書館 〈平成29・30年度〉　うきは市民ホール　コミュニティールーム

(4)　事業担当者

九州国立博物館	うきは市教育委員会 生涯学習課	福岡県教育委員会 文化財保護課
小泉惠英（学芸部長） 河野一隆（平成29・30年度、文化財課長） 原田あゆみ（平成30年度、文化財課長） 木川りか（博物館科学課長） 秋山純子（博物館科学課主任研究員） 本田光子（平成27・28年度、特任研究員） 三角菜緒（平成27・28年度、博物館科学課アソシエイトフェロー） 萬納恵介（平成29年度、博物館科学課アソシエイトフェロー） 小川香菜恵（平成30年度、博物館科学課アソシエイトフェロー）	江島尚子（文化財保護係長） 生野里美（文化財保護係主事） 竹熊若葉（平成29・30年度、文化財保存活用プランナー） 濱田信也（平成29年度、嘱託職員） 平田定幸（平成30年度、嘱託職員）	赤司善彦（平成27・28年度、課長） 國生知子（平成29年度） 岸本　圭（平成30年度）

Fig. 1　所有者との打ち合わせ（平成27年７月24日）

Fig. 2　サポーター育成講座（平成29年11月20日）

第２章
文化財サポーター育成講座

１. 講座開講までの具体的なプロセス

⑴　資料の選択・搬出

市民に資料の取り扱いを学んでもらうためには、ひとつの分野に偏らない多種多様な資料に触れる機会を提供できることが望ましい。このことを踏まえて調査資料を選択するため、所有者宅にて事前調査を実施し、所有者宅の一部屋に収納された美術工芸、歴史資料、民具等の資料を含む全ての物品、計720件を調査対象とした。

資料の大部分は事業担当者のみで搬出作業を行なったが、サポーターによる将来的な搬出作業の実施も想定して、一部の資料については受講生も参加して蔵出し実習という形で平成28年６月17日に運び出しを行なった。

資料はうきは市立浮羽歴史民俗資料館に保管後、講座で使用しやすいように専門家による指導が必要な資料と、受講生のみで調書作成作業が可能なものに仕分けを行なった。

⑵　受講生の募集

受講生は継続して講座に参加できることが望ましく、歴史や文化に興味関心のある市の郷土史会員や古文書講座受講生を中心に声掛けを行なった。結果として、９割がうきは市民で、その他は市内で研究活動を行なう大学生や隣接市町村に在住する市民など、うきは市に縁のある人々で構成された。また、うきは市の市立資料館３館に勤務する嘱託職員も参加した。

平成27・28年度に実施したアンケート結果によると、受講生の多くが自身の関心を深めるため、もしくは、まちづくりなどの地域活動への貢献を目指して参加したことがわかる。

２. 講座内容

２．１　講義概要

実施年度	平成27～29年度

⑴　講義題目と講師

市民が文化財に接する際の心構えを学ぶために、多分野の講師を招き、文化財調査によってどのようなことが分かるのか具体的な調査事例を解説するなどの講義を行なった。

Tab.　講座プログラム一覧

回	日付	講義題目	講師	参加受講生数
平成27年度				
1	11月２日(月)	「地域の文化財によりそう」	森　弘子 （福岡県文化財保護審議会専門委員会）	12名
		「市民と協働した文化財調査―うきは市文化財サポーターへの期待―」	三角菜緒（九州国立博物館）	
2	12月７日(月)	「家の歴史を残すということ―調査・記録・保存そして記憶を繋ぐ―」	植野かおり（立花家史料館）	14名
		「市民とともに歩む文書館―尼崎市立地域研究史料館の取組―」	河野未央（尼崎市立地域研究史料館）	
3	２月１日(月)	「地域資料から日露戦争を見る」	兒玉州平（九州産業大学）	10名
		「文化財に接する時に―材料について考える　その１導入―」	本田光子（九州国立博物館）	
4	２月15日(月)	「河北倫明と河北家住宅について」	植野健造（福岡大学）	12名
		「河北家所蔵の児童文学関連資料」	狩野啓子（久留米大学）	
平成28年度				
1	６月３日(金)	「文化財に接するときに―材料について考える②―」	本田光子（九州国立博物館）	13名
		「蔵出しの仕方を学ぶ」	三角菜緒（九州国立博物館）	
2	６月17日(金)	蔵出し実習		12名
3	８月19日(金)	「浮羽出身の新選組隊士と庶民剣士」	平川新（宮城女子学院大学）	14名
4	11月28日(月)	整理実習①		10名
5	12月19日(月)	整理実習②		11名
6	１月23日(月)	「陶磁器の整理実習①」	松下久子（九州国立博物館）	14名
7	２月27日(月)	「陶磁器の整理実習②」	松下久子（九州国立博物館）	13名
平成29年度				
1	10月16日(月)	「「みんなで守る文化財」とは？」	河野一隆（九州国立博物館）	12名
		整理実習①		
2	11月20日(月)	「文化財を収納する箱の役割と取扱い方法」	河野一隆（九州国立博物館）	12名
		整理実習②		
3	12月18日(月)	整理実習③		12名
4	１月15日(月)	「美術工芸品（絵画）の鑑賞と取り扱い方法①」	山下善也（九州国立博物館）	９名
5	２月19日(月)	「美術工芸品（絵画）の鑑賞と取り扱い方法②」	森實久美子（九州国立博物館）	９名
6	３月５日(月)	「美術工芸品（絵画）の鑑賞と取り扱い方法③」	山下善也（九州国立博物館）	10名
平成30年度				
1	５月28日(月)	整理実習①		13名
2	６月25日(月)	整理実習②		12名
3	７月17日(火)	整理実習③		13名
4	８月20日(月)	「刀剣類の取り扱い方法と整理について」	望月規史（九州国立博物館）	13名
5	９月18日(火)	「歴史資料の取り扱い方法と整理について」	一瀬　智（九州国立博物館）	11名
6	10月９日(火)	整理実習④		12名
7	11月26日(月)	「掛物の取り扱い方法と整理について」	山下善也（九州国立博物館）	７名
8	12月17日(月)	「文化財の整理実習⑤」		９名

Fig. 3　平成27年度第１回講座（11月２日）

Fig. 4　平成27年度第４回講座（２月15日）

Fig. 5　平成27年度第２回講座（12月７日）

Fig. 6　平成28年度第３回講座（８月19日）

２．２　実習概要

(1)　体制

資料調査・整理実習では４～６人の班に分かれて作業を行なった。班員は固定せず、出席した受講生の中で自由に組み合わせた。指導する専門家や担当者は各班を回りながら受講生の作業を指導した。

(2)　調書について

調書[2]は専門的な知識をもたずとも、あらゆる分野に対応できるよう項目を設定した。平成29年度からは掛軸専用の調書フォーマットを作成し、資料によって２種類の調書を使い分けた［資料編参照］。調書作成作業にあたり、主に以下の道具を使って記録を採った。

道具名	主な用途
コンベックス（樹脂製巻尺）	資料の測定
コンベックス（金属製巻尺）	撮影時のスケール、資料の測定
コンパクトデジタルカメラ	資料の撮影
薄葉紙	資料の梱包、養生
刷毛（毛と化学繊維の２種を用意）	資料のクリーニング

[2] 本事業では「資料カルテ」とも呼称した。

２．３　テーマ別の講座内容

⑴　日用品・記念品・贈答品類の整理実習

実施年度	平成28～30年度

調査対象資料の多くを占めている食器、調理用具といった日用品類、記念品・贈答品などの専門家の指導を必要としないものについて、以下のようにカルテを作成した。また、民俗学の専門家の意見をふまえ、所有者から資料に関するエピソード（作成・使用時期、来歴など）を聞き取り、調書に記録した。

＜カルテ記録要領＞

カルテ項目	記録要領
資料の名前	一般的な呼称、もしくは商品名
法量	縦、横、高さ（厚さ）の３点
いつごろのもの	制作時期不明のものは、所有者の記憶をもとに使用時期を推定
備考	生産地や付属品、記念品・贈答品で熨斗紙の残るものは表書きを記録した。そのほか、所有者による由来等の証言を記録
写真	全体写真のほか、必要と思われるものについて個別拡大写真を撮影

Fig. 7　平成27年度第４回講座（２月15日）

Fig. 8　平成28年度第５回講座（12月19日）

Fig. 9　平成29年度第１回講座（10月16日）

Fig. 10　平成30年度第１回講座（５月28日）

(2) 絵画（掛物）の講義・実習

実施年度	平成29・30年度
講　　師	山下善也（九州国立博物館　主任研究員） 森實久美子（九州国立博物館　主任研究員）
講義内容	・掛物、箱の基本的な取り扱い方法 ・材質技法の見分け方 ・法量の計測方法

＜カルテ記録要領＞

カルテ項目	記録要領
作品名称	原則として箱書き等の記載を採用。ない場合は、画題を記入
材質・技法	紙・絹・麻、着色・墨画・墨書・淡彩で該当するものを選択
法量	本紙・表具の縦・横、軸木の長さ（軸長）、箱の縦・横・高さを計測
付属品	箱や同封されていた手紙、メモなど
写真	全体写真のほか、本紙のみ、印や署名があればその部分を撮影

Fig. 11　平成29年度第４回講座（１月15日）

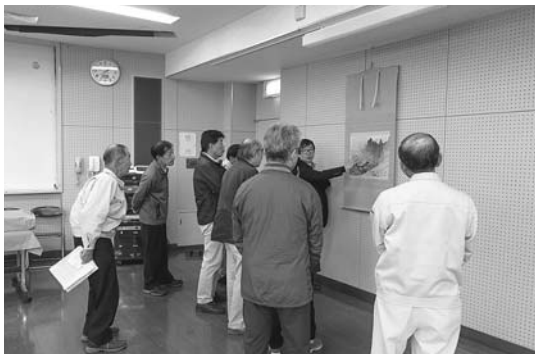


Fig. 12　平成30年度第７回講座（11月26日）

(3) 文献資料の講義・実習

実施年度	平成30年度
講　　師	一瀬　智（九州国立博物館　主任研究員）
講義内容	・文献資料の基本的な取り扱い方法 ・文献資料の形状、数量の数え方

＜カルテ記録要領＞

カルテ項目	記録要領
資料の名前	原則として、原文書から抜き出した表題を資料名とした
法量	縦、横、高さ（厚さ）の３点
いつごろのもの	資料に制作年月日の記載がある場合はそれを採用し、ない場合は所有者の記憶をもとに推定
備考	［作成者］資料に記載がある場合はそれを採用し、特定できない場合は不明とした。 ［形態・数量］講義内容をふまえて記録 ［付属品］資料に挟み込まれたメモや梱包材について記録
写真	資料のまとまり別に撮影

Fig. 13・14　平成30年度第５回講座（９月18日）

(4) 陶磁器の講義・実習

実施年度	平成28年度
講　　師	松下久子 （九州国立博物館　研修生（平成28年度当時））
講義内容	・陶磁器類の基本的な取り扱い方法 ・陶磁器類の形状、文様の見方、数量の数え方 ・陶磁器類の計測方法

＜カルテ記録要領＞

カルテ項目	記録要領
資料の名前	装飾技法、文様、器形を組み合わせて付与
法量	口径、底径、胴回り、高台脇など
いつごろのもの	箱書きなどに制作年月日の記載がある場合はそれを採用し、ない場合は所有者の記憶をもとに入手・使用時期を推定
備考	［作成者］箱書きなどに記載がある場合はそれを採用し、特定できない場合は不明とした ［形態・数量］講義内容をふまえて記録 ［付属品］箱など
写真	全体写真のほか、銘や箱書きがあれば個別に撮影

Fig. 15・16　平成28年度第６回講座（１月23日）

刀剣類の講義・実習

実施年度	平成30年度
講　　師	望月規史（九州国立博物館　研究員）
講義内容	・刀剣の種類、基本的な取り扱い方法 ・刀剣登録証と実物の照合の仕方（刀剣登録証の見方） ・文化財レスキュー時を想定した鞘が欠損している場合の刀剣類の取扱い方法 ・博物館・美術館での鑑賞方法 ・都道府県教育委員会が担う刀剣登録の手続き、など

＜カルテ記録要領＞

カルテ項目	記録要領
資料の名前	刀剣の種類（太刀・刀・短刀・なぎなた）
法量	刃長、反りの２点
備考	［付属品の確認］刀剣登録証、拵（こしら）え（白鞘、塗り）、鎺（はばき）、目釘（めくぎ）、刀袋など ［その他］銘・彫物の有無、目釘孔（あな）の数、白鞘の墨書、保存状態など
写真	全体写真（付属品を含む）のほか、刀身の表裏、茎（なかご）の表裏を撮影

Fig. 17・18　平成30年度第４回講座（８月20日）

蔵出し実習

実施年度	平成27年度

歴史学の専門家のアドバイスをもとに所有者宅より資料の運び出しを行なった。講座開講前に担当者のみで行なった搬出作業と同様に、一般的な古文書の蔵出し調査で行なわれる現状記録の作成と、各資料に現位置を反映した番号を付与した。

Fig. 19～22　平成28年度第２回講座（６月17日）

第３章

調査対象資料の管理とその後の取り扱い

１.所有者宅から保管場所へ（搬出・蔵出し）

第２章でも述べたとおり、本事業では所有者宅の一部屋に収納されている全ての資料を調査対象とし、それらの一部の搬出には受講生も参加して実習形式で作業を実施した。

作業前に該当の部屋および所有者宅周辺の環境調査を行ない、作業従事者用に適切な作業着やマスクなどを整えた。

搬出に際して、歴史資料の専門家の意見を踏まえ、一般的な古文書の蔵出し時に実施される資料の原位置把握を目的とした管理番号付与の手順に準拠した。すなわち、収納位置を細かく区画し、それぞれの区画に記号を付け、その区画記号と数量を表す数字を組み合わせたものを管理番号として、資料の１点ずつに番号ラベルをつけた。梱包する前には、埃を払うなどのクリーニングを行なった。なお、運び出しには美術品輸送業者へ協力を依頼した。

Fig. 23　搬出前のラベル付け

Fig. 24　環境調査

Fig. 25　クリーニング

Fig. 26　梱包

2. 保管

外部での保管にあたり、資料の安全性の担保は言うまでもないが、搬出以前に行なった環境調査の結果をもとに、収蔵環境の変化による資料への影響を考慮し、市内にあって温湿度環境が類似する場所へ移管した。移管先へ搬入する際は、床に白い不織布を敷き、その上に箱詰めにされた資料を置くことで、文化財害虫等の被害が発生した場合、発見しやすいように工夫した。また、一部の資料については、湿気対策としてすのこの上に置いて保管した。保管の際は、搬出時に使用した段ボール箱に入れ、箱表面に中の資料管理番号を記して管理した。

Fig. 27　移管場所の様子

Fig. 28　保管用の箱に管理番号を記す

保管に当たり、九州国立博物館学芸部長、うきは市教育委員会教育長の連名で、所有者に対し以下の事項が記載された「文化財等一時預証」を発行した。

1．文化財等の一時保管場所
2．文化財等の搬出、運送及び保管については保険をかけない
3．文化財等の一時保管期間は、一時保管場所への搬入が完了した日から平成30年度末までとする
4．一時保管が終了した文化財等については、九州国立博物館が搬出及び運送する

3. 保管場所から所有者宅へ（返却・収納）

すべての資料の調書作成が完了した平成31年３月に、借用した資料を所有者へ返却した。返却時は原位置（搬出時に置かれていた場所）への復帰を基本原則としつつも、以後に所有者が管理しやすいように、日常的に使用するものは手に取り易い所へ置くなど収納位置を変更した。また、資料の性質と保管環境を考慮して、床置きから上段の棚に移す、すのこの上に置くなどの変更も行なった。このように原位置から場所を変更したものは記録を採り、後述する一覧表に反映した。収納の際に改めて所有者が全資料を確認し、不要と判断して処分された資料も少量ある。返却に際しても、搬出時と同様に美術品輸送業者と作業を行なった。

Fig. 29　開梱と確認

Fig. 30　湿気対策のすのこ

4. その後の管理について

本事業では、講座において受講生が各資料の基本情報を調書に記録し、その内容をまとめた一覧表を事業担当者で作成した。これらの調書と一覧表は所有者とうきは市の双方で保管することとした。

このように情報を管理することで、平時の文化財保存・活用だけでなく、万が一災害で被災した際のレスキュー活動にも活かされることが期待される。

第２部

総括

第１章
事業の評価と課題
第２章
地域の文化財等防災体制構築のための
モデル策定事業について

II 第1章 事業の評価と課題

1. 評価

以下は、本事業に参加した受講生へのアンケート調査と講座での様子を観察した結果による。

① 講座および調査の進め方について問題点を抽出することができた

サポーター育成講座では、簡便なフォーマットで繰り返し作業を行なうことで調査方法について要領を得ることができた、という意見があった。調書のフォーマットは専門的になりすぎないことが肝要であるが、実際には調書の項目が少なかったことにより資料によって記載項目を増やしたため、記録内容にばらつきが見られた。

日用品類といった専門家の指導を要さない資料を対象とした調書作成作業については、平成27年度からほぼ手法を変えずに続けてきたこともあり、最終年度時点で受講生だけで自発的に作業が行なえるようになっていた。しかし、専門家領域の資料については、受講生だけで作業を進めるのは難しく、引き続き指導や実習が必要と考えられる。

② 調査手法を理解したことにより、当事者として文化財保護に向き合う姿勢が生まれた

受講生にとって、文化財保護活動は一部の専門家や研究者だけが携わるものという印象をもっていたところ、本事業において文化財の取り扱いや調査方法について学んだことにより、文化財保護活動について当事者としての意識が芽生えていることがわかった。

③ 身近な文化財を捉えなおすことで新しい興味関心が生まれ、活動に意欲的になった

講義では文化財に接する心構え、調査事例の紹介などを行なってきたが、その効果として受講生が文化財について認識を新たにするきっかけとなったことがうかがえる。もともと受講生の多くが歴史や文化に興味をもち、日頃から接する機会をもっていた人々ではあったが、講座を受講することで「文化財」という言葉が指す分野・もの、それらが担う役割などについて知見を深める、これまでとは違う鑑賞方法を獲得するといったことができたようである。それにより新たな興味関心が生まれ、自身で知識を深めることや、講座での学習に意欲的に取り組むという好循環が生まれていたと見られる。

④ 文化財防災の考え方を知り、身近な問題として考えるようになった

本事業に参加することで、受講生のほとんどが文化財防災という考え方に初めて触れた。講座内では、実際に東日本大震災で文化財レスキューに携わった講師による文化財防災についての講義を行なった。平成29年にはうきは市に隣接する地域で大規模な豪雨災害が発生し、受講生の中には被害の実情を見聞する機会も多分にあったことと考えられる。そうした中で、平成30年度に実施したアンケート調査では、災害時に文化財が直面する問題を的確に捉え、どのように行動するべきか具体的な意見が見られ、災害の経験によって文化財防災についてより実践的な理解を得られたことは本事業としても意義深い。

2 . 今後の課題

①　調書のフォーマットを改める

調書の記録内容にばらつきがみられた要因のひとつに、調書フォーマットの不備がある。専門的になりすぎないことを意図して記載項目を極力少なくしたために、記録の採り漏れが起きていたと考えられる。フォーマットの項目を精査し、過度に複雑すぎないながらも必要な情報を漏らさず記録できるようなフォーマットを作成する必要がある。

②　効率的な調査方法を検討する

講座では、美術・歴史資料といった専門家による指導が必要な分野の資料以外に、多量の日用品類の整理、調書作成を行なってきた。日用品類を対象とした実習が連続すると、受講生の意欲が下がることも懸念されたが、同じ方法で繰り返し調書作成作業を経験することによって、受講生の多くが調査方法の要領を掴むことができた。

一方で、専門家による指導が必要な分野の資料については、受講生だけで調書づくりを進めるには困難な面も残っている。その解決策として、指導回数を増やすなどが考えられるが、受講生だけで調書作成が可能となるように最小限の基本情報だけを採録するなど、専門的な分野の資料については調査方法を簡略化するといったことも考慮すべきであった。

本事業では調査方法の学習を目的として日用品類も含む全てを調査対象としたが、限られた時間と人材で民間に所在する大量の文化遺産を把握・記録するためには、あらかじめ所有者の意向等を踏まえつつ、学術調査のように１点ずつ詳細に記録を取ることを原則とせず、調査方法を柔軟に工夫する必要がある。

③　調書作成以外の作業システムを構築する

本事業では、受講生に文化財の取り扱いを学んでもらうことを主眼として、調書作成作業のみを重点的に行なってきた。そのような経緯もあって、調査で得た情報をデータ化するまでの作業を受講生が主体となって行なうには至らなかった。万が一災害によって被災した際のレスキュー時などに活用されるものとして、資料はデータベース化されていることが望ましい。本事業では講座の作業時間内で受講生を含めた調査実施者がデータ入力作業を行なうことについては実現できなかったが、データ化までを調査にかかる一連の作業として完結させることは今後の課題である。

第２章
地域の文化財等防災体制構築のためのモデル策定事業について

うきは市教育委員会生涯学習課文化財保護係
主事　生野　里美

うきは市浮羽町山北に所在する河北家は平成27年度に九州国立博物館の文化財防災ネットワーク推進事業の一つである「地域の文化財等防災体制構築のためのモデル策定事業」に選定された。今回のモデル策定事業を通しての感想を述べる前にうきは市と河北家について少しご紹介させていただければと思う。

１. うきは市と河北家について

福岡県うきは市は、福岡県の南東部に位置し、平成17年３月に旧浮羽郡浮羽町と同旧吉井町とが合併して誕生した市である。東は大分県日田市、西は久留米市に隣接し、これらの市をつなぐ国道210号線は市の中央部を貫通している。うきは市の南にはその山並みを屏風にもたとえられる耳納連山がそびえ立ち、北には日本三大暴れ川とも言われた九州第一の大河である筑後川が流れ、それぞれ隣接する八女市と朝倉市の市境になっている。

Fig. 31　河北家住宅主屋（北東から）

市を代表する文化財としては日岡古墳・珍敷塚古墳に代表される７基の装飾古墳、江戸時代、商人の町として栄え白壁の町並みが有名な「筑後吉井伝統的建造物群保存地区」、また市の南東部、耳納連山の狭隘な谷あいに存在する山村集落「新川田篭伝統的建造物群保存地区」等、数多くの文化財が残る市である。

今回、モデル地として選定された浮羽町山北に位置する河北家は、鎌倉時代創成期（1190）に今の大分県日田市より浮羽町隈上に地頭職として入り、天正時代（1575）には現在の地に移り住み、以来豪農として今日まで代々続く旧家である。日本近代美術研究の先駆者である美術評論家河北倫明の生家でもあり、平成16年には主屋を含む８棟が「楠森河北家住宅」として国登録有形文化財に指定された。以上のように長い歴史の中で、同家には美術・工芸品、民具、古文書類等、数多くの文化財が伝えられている。

Fig. 32　河北家　庭　秋の様子

２. 文化財サポーター育成講座と受講者の様子

「１.」で述べたように、多岐に渡る文化財が伝えられている河北家は様々な分野の研究者によって部分的な調査が行なわれてきた。しかし河北家に伝えられてきた文化財の全体像の把握には至っていない。そんな中、平成27年に河北家が上記事業のモデルとして選定され、事業がスタートした。

初年度の平成27年度には資料館職員と文化財に興味のある市民に呼びかけを行ない、文化財育成サポーター講座として専門家の先生方を招いた講座が開かれ、３月に河北家カンジョウマより資料の蔵出しが行わ

れた。次年度の平成28年度にはサポーターも交えた蔵出しを行ない、先生方の講座とともに実際に河北家の資料を用いて資料整理の行ない方を学んでいった。初年度と次年度は発掘調査等の関係でなかなか講座に出席することが出来なかったが、中でも印象に残っているのは、東日本大震災の復興過程で、地域で行なわれてきた民俗芸能により人が集まり、住民の日常を取り戻す第一歩となった、という例だった。この事例と少し重なる事が文化財サポーター養成講座の資料整理の中でもあった。平成28年度終盤より、本格的にサポーターの方とともに資料整理を行なう中でサポーターの方（私を含め）が共通して興味を引くものが何種類かあった。歴史的に価値のあるもの、精巧な工芸品等はもちろんだが、一番話が盛り上がるのが、昔うきは市にあったデパートや商店街の包装紙等だった。大きな日本の歴史から見れば、取るに足らないモノであるが、その土地で育った人間にとっては、色々な思い出を想起させ、語りに花開くものだった。「昔はこんな包装紙だったのか」「ここの屋上に昔パンダの乗り物があった」等、皆自分の体験を基に話していた。

民俗芸能の例もこのサポーターの方々の例も同様に人の語りを産んでおり、「思い出の共有」が行なわれている。この経験から本来文化財が持つ役割の一面を見た気がした。

事業の感想が一つの経験に終始してしまったが、この４年間の講座の中でサポーターの方たちの方が文化財の取扱いについてきちんと学び実践を繰り返し、私が教えを請うことも多くなっていった事も事実である。

3 . 終わりに変えて

４年間この事業に関わらせていただき、自分の知識不足、経験不足、配慮不足等々文化財の仕事を行なう上で必要なことがことごとく不足していることが嫌というほど身に染みたが、終わりに変えて簡単な所感を述べたいと思う。

この事業がうきは市で始まってからも様々な災害が全国で起こった。個人的な話になってしまうが、私自身も現在住んでいる朝倉市で平成29年九州北部豪雨の際に自宅が床上浸水した。家を片付ける中で考えたのは、こんな状況で文化財レスキューに来ました、古文書類や文化財を捨てずに預けてください、と言われても正直困るだろうなぁということだった。幸いと言っていいのか分からないが、歴史ある家の生まれでもなんでもないため大概のものは捨ててしまった。文化財に関わる仕事をしている身としては資質が問われる捨て方だったと思うが、とにかく少しでも早く暮らせるようになりたい、という思いが勝った。自分が被災した正直な感想である。その時からどうすれば被災した方に寄り添いつつ文化財のレスキューができるのか、ぼんやり考えていたが、やはり普段から信頼している人になら心が硬くならずに話もできるし気持ちよく預けられる、という事しか浮かばなかった。文化財防災ネットワーク事業が目指していることの一つにはこういった所有者の方との関係づくりも含まれているのだろうと思う。

しかしながら業務だけは増えていく中で地域の文化財を把握しながら悉皆調査を進めていくことが難しいことも確かである。これからこういった事業を行なう上で体制づくりが非常に重要になるのではないか、とも感じた。人員の少ない市町村で事業を行なう場合、ある程度自走できる市民団体等の設立、大学機関等との協力ができれば、スムーズに事業を進めることができるかもしれない。その際、方針をどのように設定し（悉皆調査のレベル設定・棒目録を作成した上で全てのものを１点１点調査、撮影を行ない調書にまとめるのか、それとも棒目録を基に、ある程度の線引きを行ない、調書を作成するものとしないものを分けて調書を作成していくのか等）、スケジュール、所有者様との意見のすり合わせが、非常に重要だと感じた。もちろん１点１点調書を作成することが理想ではあることは理解しているが、事業を行なう中で時間は無限では

ない、と痛感したことも事実である。線引きを行なう上で「2.」で述べたような地域の人の語りを生むモノをどう扱うのかが大変難しい課題だと思うが、日常から頭の隅に置いて折に触れて考えることで少しずつ考えもまとまったり変わったりするのかな、と思う。

最後に、４年間、文化財サポーター育成講座に出席していただき、資料調査にご協力いただいた市民の皆様のご協力なしには成り立たない事業でした。

末尾になりますが、河北家当主宣正氏、九州国立博物館文化財防災ネットワーク推進室の皆様には学びの機会を与えて下さったことに心より感謝申し上げるとともに、４年間調査についてご協力下さった河北宣正氏に改めて御礼申し上げます。

資料編

1．調書フォーマット
2．活動概要一覧
3．アンケート調査回答まとめ

1. 調書フォーマット

年　　月　　日
【氏名】（　　）

○○家　資料カルテ			
所蔵者	（所有者名）	対象	（部屋の名前）
蔵の場所	東　西　南　北 （　　）	番号	ー
※資料写真を貼り付けてください。			
資料の名前			
法量	縦　　mm　横　　mm　高さ　　mm		
いつごろのもの			
備考 ※包装紙・作成者・内容などについて自由に記述して下さい			

Fig. 33　資料カルテ（おもて）

メモ（○○さんからの聞き取り・資料を見て感じたこと思い出したことなど）

Fig. 34　資料カルテ（うら）

掛軸調査用紙							
調査日：　　年　　月　　日			調査地				
記入者			管理番号 東　西　南　北　　—				
作品名称			員数		作者		
指定			制作年代				
所有・管理者							
材質・技法	［紙・絹・麻］本［着色・墨画・墨書・淡彩］※それぞれ選択						
法量（cm）	本紙	縦　　×横					
	表具	縦　　×横			軸長		
	箱	長　　×幅　　×高					
付属品：							
保存状態	良好・破損・水損・カビ・虫損 その他（　　）						
写真							

Fig. 35　掛軸用資料カルテ（おもて）

メモ（〇〇さんからの聞き取り・資料を見て感じたこと思い出したことなど）

Fig. 36　掛軸用資料カルテ（うら）

2．活動概要一覧

日付	活動内容	場所	参加者
平成27年度			
７月24日（金）	事業打ち合わせ、事前調査	所有者宅	本田、三角、赤司
	打ち合わせ	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	本田、三角、赤司、安元、江島、佐藤良英、所有者
９月16日（水）	概要調査、環境調査①	所有者宅	本田、三角、江島、生野、川越、兒玉
11月２日（月）	現状調査①（民俗資料）	所有者宅	本田、三角、森、竹田
11月２日（月）	第１回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
12月７日（月）	現状調査②（美術工芸品）	所有者宅	本田、三角、植野、竹田
	第２回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
12月14日（月）	現状調査③（歴史資料）	所有者宅	三角、兒玉
２月１日（月）	第３回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
２月15日（月）	第４回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
２月22日（月）	蔵出し調査①、環境調査②	所有者宅、うきは市立浮羽歴史民俗資料館	本田、三角、江島、生野、うきは市文化財整理作業員４名、川越、竹田、日通作業員４名
２月23日（火）	蔵出し調査②、環境調査③	所有者宅、うきは市立浮羽歴史民俗資料館	本田、三角、江島、うきは市文化財整理作業員４名、川越、竹田、兒玉、江島香、日通作業員４名
平成28年度			
６月３日（金）	第１回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
６月17日（金）	第２回サポーター育成講座（蔵出し実習）	所有者宅	
８月19日（金）	第３回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
11月28日（月）	第４回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
12月19日（月）	第５回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
１月23日（月）	第６回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
２月27日（月）	第７回サポーター育成講座	うきは市立図書館	
平成29年度			
７月24日（月）	目録作成①	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	小泉、萬納、松下、國生、江島、生野、竹熊、濱田、森
７月25日（火）	目録作成②	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	萬納、一瀬、松下、江島、生野、竹熊、濱田、森
９月15日（金）	調査方針について打ち合わせ	うきは市生涯学習センター	河野、萬納、江島、生野、竹熊、濱田
10月16日（月）	第１回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	河野、萬納
11月20日（月）	第２回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	河野、萬納

日付	活動内容	場所	参加者
12月18日(月)	第３回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	小泉、河野、萬納
１月15日(月)	第４回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	
２月19日(月)	第５回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	
３月５日(月)	第６回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	
平成30年度			
４月26日(木)	今年度の活動方針検討会議	うきは市生涯学習センター	河野、小川、江島、生野、竹熊、平田、坂本
５月28日(月)	第１回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	河野、小川、生野、竹熊、平田
６月11日(月)	職員のみの集中整理作業①	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	生野、竹熊、平田、受講生兼資料館職員６名
６月20日(水)	事前調査（刀剣類）	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	小川、生野、竹熊、平田
６月25日(月)	第２回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	小川、生野、竹熊、平田
７月17日(火)	第３回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	原田、小川、生野、竹熊、平田
７月30日(月)	職員のみの集中整理作業②、事前調査（歴史資料）	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	小川、生野、竹熊、平田、受講生兼資料館職員５名
８月20日(月)	第４回サポーター育成講座(刀剣編)	うきは市民ホールコミュニティールーム	原田、小川、生野、竹熊、平田
９月18日(火)	第5回サポーター育成講座(歴史資料編)	うきは市民ホールコミュニティールーム	小川、生野、平田
10月９日(火)	第６回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	小川、生野、平田
10月15日(月)	職員のみの集中整理作業③	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	生野、平田、受講生兼資料館職員６名
11月５日(月)	職員のみの集中整理作業④	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	生野、平田、受講生兼資料館職員３名
11月８日(木)	返却のための打ち合わせ①	うきは市生涯学習センター、所有者宅	小泉、原田、小川、生野、平田、日通担当者２名
11月26日(月)	第7回サポーター育成講座(掛物編)	うきは市民ホールコミュニティールーム	原田、小川、生野、竹熊、平田
12月17日(月)	第８回サポーター育成講座	うきは市民ホールコミュニティールーム	小川、生野、竹熊、平田
１月７日(月)	職員のみの集中整理作業⑤	うきは市民ホールコミュニティールーム	原田、小川、生野、平田、竹熊、受講生兼資料館職員４名
１月８日(火)	職員のみの集中整理作業⑥	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	原田、小川、生野、平田、受講生兼資料館職員２名
１月11日(金)	職員のみの集中整理作業⑦	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	小川、生野、平田、受講生兼資料館職員３名、うきは市生涯学習課臨時職員２名
２月７日(木)	返却のための打ち合わせ②	うきは市生涯学習センター、所有者宅	原田、小川、木川、生野
３月６日(水)	返却作業①	うきは市立浮羽歴史民俗資料館、所有者宅	原田、小川、小泉、木川、秋山、生野、平田、うきは市文化財整理作業員２名、日通作業員４名
３月７日(木)	返却作業②	うきは市立浮羽歴史民俗資料館、所有者宅	原田、小川、秋山、生野、竹熊、日通作業員４名
３月８日(金)	返却作業③	うきは市立浮羽歴史民俗資料館、所有者宅	原田、小川、小泉、生野、竹熊、日通作業員４名

3. アンケート調査回答まとめ

調査概要

年　　度	アンケート実施日	回答者数／受講生数
平成27年度	平成28年２月15日	12名／16名
平成28年度	平成29年２月27日	11名／20名
平成29年度	アンケート実施せず	
平成30年度	平成30年12月17日	９名／17名

（1）平成27年度

実施日　平成28年２月15日　　**回答数**　12名

【性　　別】　男性・女性
【年　　齢】　20代以下・30代・40代・50代・60代・70代以上
【ご 職 業】　学生　教職　公務員　会社員　自営業　専業主婦　パート・アルバイト　無職　その他（　　）
【お住まい】　うきは市・うきは市外

性別　男性７名、女性４名、無回答１名
年齢　20代以下１名、50代２名、60代７名、無回答２名
職業　学生１名、公務員１名、パート・アルバイト２名、無職４名、その他２名、無回答２名
住所　うきは市９名、うきは市外３名

１．講座（第１回～第４回）の内容はいかがでしたか？　　①満足　②普通　③不十分

①満足…５名　※理由の回答なし
②普通…５名
・もっと回数を増やしてほしい（60代男性）
・回数を経ることによって少しずつわかるようになった（60代）
無回答…２名

２．講座に興味をもたれた・参加された理由を教えてください。

【対象資料への興味関心】
・河北家住宅の調査に興味があったから（20代以下男性）
・河北家の多量の資料が紛失・散逸することを心配していたから（60代男性）
【地域活動への興味・関心】
・地元のまちづくり活動に講座の内容が役立つと期待したから（60代男性）
・郷土の文化財について学ぶ機会になると思ったから（60代女性）
【歴史・文化全般への興味・関心】
・歴史が好きで興味があったから（50代女性）
・文化財に興味を持っていたから（60代男性）

【その他】
・教育委員会からのお知らせがあったから（60代男性ほか）

3．講座の感想をお聞かせください。

【文化財保存についての理解】
・江戸時代からつづく行事や美術品、生活用品の次世代への継承の大変さがわかった。河北家の文化財を守るために、地域住民の協力が必要と感じた（50代女性）
・文化財の取り扱いについての基礎的なことがわかった。材質や耐用年数、取り扱い等、物の見方が少し深くなったと思う（60代女性）
・文化財という目線から物を捉えたことがなかったので、各講座の話がとても新鮮だった（20代以下男性）
【地元への貢献意欲】
・河北家のこと、うきはの文化財についてもっと講座を聞きたいと思った（50代女性）
・今後の地域活動に活かしたい（60代男性）
【その他】
・専門家の話を聞けて満足した（60代男性）
・悉皆調査のサポートが出来るか不安である（60代男性）

4．講座を受けられた前と後で地域の文化財に対する意識が変わられましたか？どのような変化でしたか？

【文化財の保存・防災についての理解】
・文化財の保存が防災につながることをはじめて知った（60代男性）
・被災地の人々が被害から立ち直るための心のよすがになる文化財の重要さを感じた（60代女性）
・所有者だけでなく、地域で文化財を守っていく方法があることに気付かされた（20代以下男性）
・文化財の伝承には国からの援助が必要と思った（女性）
【文化財への意欲・関心】
・自分も文化財保存を手伝いたいと感じた（50代女性）
・身近なところに貴重な文化財があることを再認識した（男性）
【地域活動への意欲・関心】
・調査の内容をうきは市民の多数の人にも知ってほしいと思った（60代男性）
・地域で守り育てる（地域資源の保存）ことの大切さを学んだ（60代男性）
・講座に参加しなければ知りえないことばかりでとても勉強になった。地域の文化財に対する意識が変わった。文化財の保存はもちろん、地域の活性化につながればと思った（50代女性）

5．今後の活動への参加を希望しますか？また講座についてご意見や、次回以降の講座に対するご要望をお書きください。

・文化財保存活動には喜んで協力したい（60代男性）
・次年度は文化財保存の実務講習を希望する（60代男性）
・活動を通して、うきは市の歴史をより詳しく知りたい（男性）
・整理で触れるであろう古文書について、読み方を教えてほしい（20代以下男性）

2016／2／15

うきは市文化財サポーター育成講座　アンケート

今後の事業の参考にするため、参加者の皆様にアンケートへのご協力をお願いいたします。

【性別】　男性・女性　【年齢】　20代以下・30代・40代・50代・60代・70代以上

【ご職業】　学生　教職　公務員　会社員　自営業　専業主婦　パート・アルバイト　無職　その他（　　）

【お住まい】　うきは市・うきは市外（　　市・町）

1、　講座（第１回～第４回）の内容はいかがでしたか？

満足　・　普通　・　不十分

理由（　　）

2、　講座に興味をもたれた・参加された理由を教えてください。

（　　）

3、講座の感想をお聞かせください。

（　　）

4、　講座を受けられた前と後で地域の文化財に対する意識が変わられましたか？どのような変化でしたか？

（　　）

5、　今後の活動への参加を希望しますか？また講座についてご意見や、次回以降の講座に対するご要望をお書きください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

平成27年度アンケート用紙

（2）平成28年度

実施日　平成29年２月27日　　**回答数**　11名

【性　　別】	男性・女性
【年　　齢】	20代以下・30代・40代・50代・60代・70代以上
【ご 職 業】	学生　教職　公務員　会社員　自営業　専業主婦　パート・アルバイト　無職　その他（　　）
【お住まい】	うきは市・うきは市外（　　市・町）

性別　男性５名、女性５名、無回答１名。

年齢　50代４名、60代７名

職業　専業主婦２名、パート・アルバイト３名、無職２名、その他４名

住所　うきは市８名、うきは市外３名

１．講座（第１回～第４回）の内容はいかがでしたか？　　①満足　②普通　③不十分

①満足…10名

・仕分けの仕方や保存、扱い方など興味深く学ぶことが出来た。記録の取り方なども学び、活かしていけそうだ（60代）

・地域に残された文化財を保存するための知識・技術を習得することが出来た（60代男性）

・知らないことを分かりやすく教えてもらった（60代男性）

・経験できないことを学んだから（60代男性）

無回答…１名

２．講座に興味をもたれた・参加された理由を教えてください。

【対象資料への興味関心】

・郷土にすばらしい文化財があると知り、是非学びたいと思った（60代女性）

・河北家に以前から興味があった（50代女性）

【地元への貢献】

・自分の住む地域で文化財保護活動ボランティアに取り組んでいるが、その参考になると思った（60代男性）

【歴史・文化への興味】

・もともとは誘われて参加したが、講座に参加する中でいろいろな文化財を調べていくこと自体に興味がわくようになった（50代女性）

・古いものが好きだから（50代女性）

【学習意欲】

・仕事に役に立てたいと思い参加した（60代男性）

３．講座の感想をお聞かせください。またどの講座が印象にのこっていますか？

【文化財保存についての理解】

・ものの正式な呼び方や、扱い方を知ることができて良かった（60代女性）

・材質や品目によって取り扱いが異なることが分かった（60代女性）

・蔵出し実習、調書作成が興味深かった（60代男性）
【地元への貢献意欲】
・河北家の貴重な文化財の多種多様さに驚いた（60代男性）
【達成感】
・忘れていたものや、今は見ることが出来ない宝物を見ることができて良かった（50代女性）
・普段は経験しない専門家の講義や手ほどきを受けることができ、大変ためになった（60代男性）
・最初の講義は少し難しかったが、実践に入ったらいろいろな品物を見ることができ、楽しく作業できた（50代女性）
・今後も続けてほしい（60代男性）

4．講座を受けられた前と後で地域の文化財に対する意識が変わられましたか？どのような変化でしたか？

【文化財の保存・防災についての理解】
・文化財をわれわれが守らなければならないと思った（60代男性）
・講座の中で、同志との会話、専門家の考えを聞く中で、文化財保存への意識がより高まった（60代男性）
・日常的に使用しているものや贈答品等などが、何気なく使ったり捨てたりしているが、後世に文化財として貴重なものになることに驚くとともに、その保存が重要だと感じた（60代）
【文化財への意欲・関心の高まり】
・文化財の取り扱いを丁寧にするようになった（50代女性）
・自分の指で触って、大いに親しみをもって古物を扱えるようになった（60代男性）
【地域活動への意欲・関心】
・知らなかった貴重な文化財の存在を知り、大事に後世に伝えていきたいと思った（60代女性）
・まだまだ勉強不足であるが、今後も講座に参加したいという気持ちを強くもった（50代女性）
【その他】
・わからないときは講師に直接質問が出来て大変勉強になった（50代女性）
・講座で納得しながら、一つずつ学ぶことができた（50代女性）

5．今後の活動への参加を希望しますか？また講座についてご意見や、次回以降の講座に対するご要望をお書きください。

・今回は陶磁器の取り扱いまでだったが、できれば軸物や茶器・古文書などさらに幅広い文化財の取り扱いについて学びたい（60代男性）
・掛軸の文字を読めるようになりたいと思った（50代女性）

2017／2／27

うきは市文化財サポーター育成講座　アンケート

今後の事業の参考にするため、参加者の皆様にアンケートへのご協力をお願いいたします。

【性別】　男性・女性　【年齢】　20代以下・30代・40代・50代・60代・70代以上

【ご職業】　学生　教職　公務員　会社員　自営業　専業主婦　パート・アルバイト　無職　その他（　　）

【お住まい】　うきは市・うきは市外（　　市・町）

1、　講座（第１回～第８回）の内容はいかがでしたか？

満足　・　普通　・　不十分

理由（　　）

2、　講座に興味をもたれた・参加された理由を教えてください。

（　　）

3、講座の感想をお聞かせください。またどの講座が印象にのこっていますか？

（　　）

4、　講座を受けられた前と後で地域の文化財に対する意識が変わられましたか？どのような変化でしたか？

（　　）

5、　今後の活動への参加を希望しますか？また講座についてご意見や、次回以降の講座に対するご要望をお書きください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

平成28年度アンケート用紙

（3）平成30年度

実施日　平成30年12月17日　　**回答数**　９名

Ｑ１．該当するものに○をしてください。
◎性別…男性・女性
◎年齢…20代以下・30代・40代・50代・60代・70代以上
◎これまでに参加した年度…平成27年度・28年度・29年度・30年度（今年度）
◎普段、歴史や美術などにふれる機会はどのくらいありますか？
①博物館・美術館の展覧会に行く…１年のうち（　　）回程度。ジャンル（　　）
②習い事をしている…ジャンル（　　）　③関連書籍をよく読む
④その他（　　）　⑤特にない

性　　別　男性７名、女性２名。

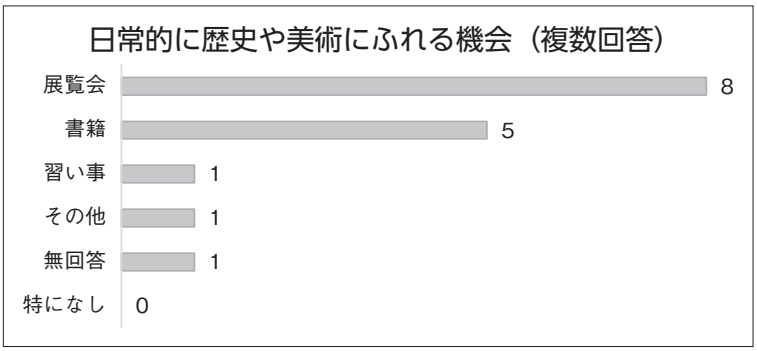
年　　齢　20代以下３名、50代１名、60代３名、70代以上２名

参加年度　１年目…３名、２年以上…６名

歴史や美術への日常的な関心（※複数回答）

展覧会を年に１回以上見に行く…８、習い事をしている…１、関連書籍を読む…５、その他…１　特にない…０

＊展覧会のジャンルとしては、歴史・絵画・建築がある。



Ｑ２．今年度の講座について教えてください。※該当する項目に○をして、理由を書いてください。
＜印象に残っている講義＞
①古文書（歴史資料）の講義　②刀剣の講義　③絵画（掛軸）の講義　④日用品、民具の整理作業　⑤その他

①古文書（歴史資料）

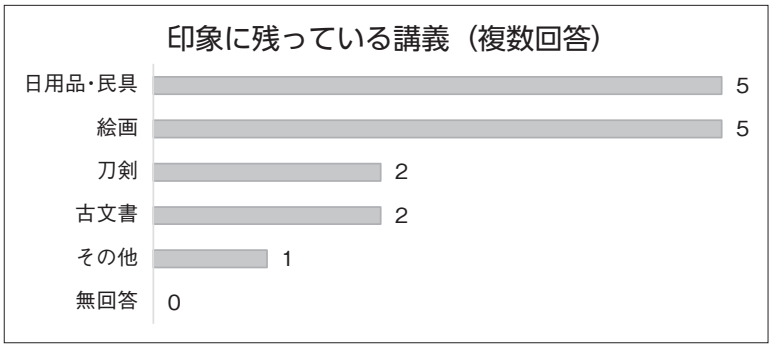
・貴重な文化財ばかりだから（70代以上男性）
・自宅や集落の神社等に残っている歴史遺産の保存・整理に有効だから（70代以上男性）

③絵画（掛軸）

・間近に鑑賞できるから（60代男性）
・時代背景がわかり、とても勉強になるから（50代女性）

④日用品・民具

・やきもの、漆器（60代女性）



Ｑ３．今年度の講座について教えてください。<印象に残っている資料>

・多数あり
・刀剣の保存［理由］自宅の刀剣の保存について、直接的に役立つ情報が得られたから（70代以上男性）
・刀剣［理由］調べ方を知ることができたから（60代男性）
・掛軸［理由］とても面白いから（50代女性）
・埴輪図［理由］ハニワの掛け軸をはじめて見たから（20代以下男性）
・絵画、書、やきもの、漆器（60代女性）

<講義内容の難易度について>　①やさしい　②ふつう［適当］　③むずかしい

① やさしい

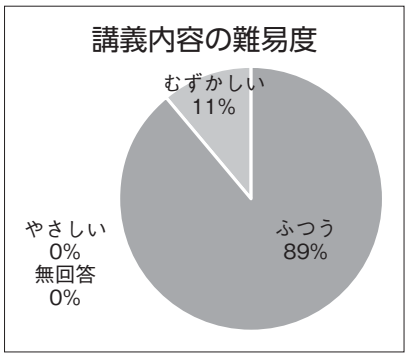
（なし）

② ふつう［適当］

・それぞれの分野の専門家による噛み砕いた講義はとても解り易かった。（70代以上男性）
・説明を聞きながら資料の整理作業を行ったので、うまく出来た。（20代以下男性）

③ むずかしい

・知らないことが多いので（50代女性）



<資料カルテ（調書）の作成について>　①やさしい　②ふつう［適当］　③むずかしい

① やさしい

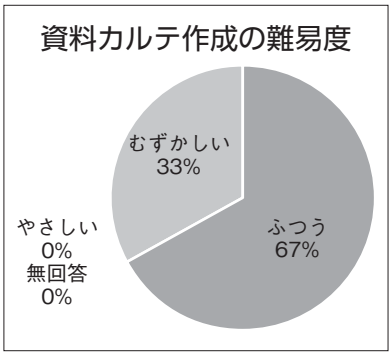
（なし）

② ふつう

・悉皆調査であることは承知しているが、基本的な項目をおさえるだけのものと少し時間をかけるものとを峻別して、意味のある記録を多く残すべきだった（20代以下男性）
・面倒さはつきものと思う（60代男性）
・同じパターンで何回も書くので分かりやすい（50代女性）
・調書のフォーマットが分かりやすく、記入し易かった。資料の読み取りはできないが、参加者の皆さんと相談しながら記入できた（20代以下男性）

③ むずかしい

・数年後まで覚えているかわからない（70代以上男性）
・勉強不足を反省している（70代以上男性）
・資料によっては難しいものがあった（60代男性）



＜作業量について＞　①多い　②ふつう［適当］　③少ない

①多い

（なし）

②ふつう

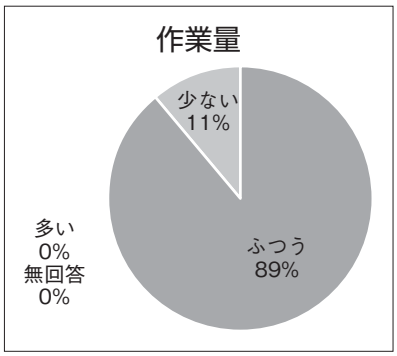
・内容、時間等ちょうどよい（70代以上男性）

・専門家が大体居てくれたので、あまり悩むことが無かった（60代男性）

・一つ一つ丁寧に！！（50代女性）

③少ない

・「カルテ作成の難易度」の回答理由から言えば、所有者からの聞き書き（外部化されていない情報）に力を入れたかった（20代以下男性）



Q３．講座参加前は「文化財」についてどのようなイメージをもっていましたか？

・大切な資料であり財産（20代以下男性）

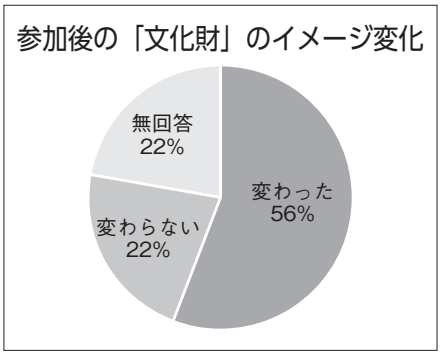
・文化財を大切に整理保存すること（60代男性）

【限定的なイメージ】

・建造物・記念物が中心で、一家に伝わる物品の類は文書や民具を除けば、あまり意味のあるものだとは思っていなかった（20代以下男性）

【ネガティブなイメージ】

・カビ臭い（60代男性）



Q４．講座参加後は「文化財」のイメージは変わりましたか？どのように変わりましたか？
①はい　②いいえ

「変わった」という意見

・文化財は専門家だけが取扱うものではなく、素人の我々自身が、「保存や活用に取り組むべき」、「取組むことができる」ということが解ったこと（70代以上男性）

・身近に感じるようになった（60代男性）

・取り扱い対応が変わった（60代男性）

・贈答品（文化財的価値の乏しいとされる物）のひらく、家と家の関係の物語（主に所有者の語りにおいて）の面白さがあることを知れた（20代以下男性）

・幅広い分野だと思った（50代女性）

「変わらない」という意見

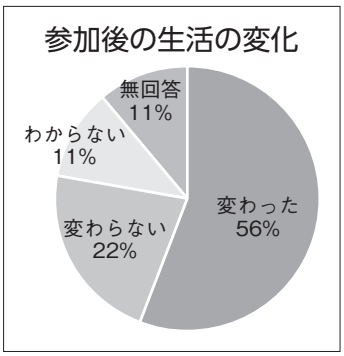
・身近にこのような貴重な文化財が多数あることに感動（70代以上男性）

Q５．講座に参加する前と後では、自分の生活でなにか変わったことはありますか？（例：興味の幅が広がった、博物館に行って物の見方が変わった、など）
①ある　②ない　③わからない

「変わった」という意見

【文化財愛護の芽生え】
・古い物は大切に扱うという心掛けが身にしみた（60代男性）

【文化財の鑑賞方法の拡大】
・掛軸の中の文字や絵をよく見るようになった（50代女性）
・歴史と地理を関連させて文化財を見るようになった（60代女性）
・興味の幅が専門外にまで広がった（20代以下男性）
・昔の物の見方（60代男性）



Q６．今後、文化財を災害から守るためにどういった取り組みが出来ると思いますか？
＜ご自身でできること＞

【心がけ】
・依頼があればすぐにかけつけたい（70代以上男性）
・興味を持って知ろうとすること（20代以下男性）

【具体的な作業の実施】
・時々刻と老化が進み、世代交代で失われつつある地域の歴史・文化遺産（特に写真類）について、デジタル保存の作業を行っている（70代以上男性）
・被災後で言えば、解体や処分される前にとにかく記録だけでも採ること（20代以下男性）
・身近なものをデータベース化し、いざという時に備える（60代男性）

＜博物館や行政機関が出来ること（要望）＞

【意識づけ】
・公費での廃棄物処理や建物の解体を被災者に宣伝するのではなく、混乱のなかでも（その後必ず時間が出来るので）とにかく何でも処分しないよう指導すべき（20代以下男性）
・貴重な文化財を市民に広く知ってもらい、多くの人で文化財を守っていく気持ちを育てボランティアを育てる（60代女性）

【技術支援】
・文化財については、①今行動を起こさずとも、将来に残るもの（ex. 地下埋蔵物）、②日々失われつつあり、今手を打たなければ永久に失われるもの、がある。後者について、素人のボランティアにも解り易い技術や情報の提供、モチベーションの上がる仕掛けをもっと強化してはと思う。（70代以上男性）
・修理技術指導をしてほしい（60代男性）
・記録・整理の上保管すること（20代以下男性）
・今回のような取り組み（財政支援）（70代以上男性）
・安全な場所で管理を行う（20代以下男性）

平成 30 年度　うきは市文化財サポーター育成講座　アンケート　2018/12/17

Q1. 該当するものに〇をしてください。
◎性　別…　男性　・　女性　◎年　齢…　20 代以下　・　30 代　・　40 代　・　50 代　・　60 代　・　70 代以上
◎これまでに参加した年度…　平成 27 年度　・　28 年度　・　29 年度　・　30 年度（今年度）
◎普段、歴史や美術などにふれる機会はどのくらいありますか？

①博物館・美術館の展覧会に行く…1 年のうち（　　）回程度。ジャンル（　　）
②習い事をしている…ジャンル（　　）　③関連書籍をよく読む
④その他（　　）　⑤特にない

Q2. 今年度の講座について教えてください。　※該当する項目に〇をして、理由を書いてください。
＜印象に残っている講義＞

①古文書（歴史資料）の講義　②刀剣の講義　③絵画（掛軸）の講義　④日用品、民具の整理作業
⑤その他（　　）
理　由（　　）

＜印象に残っている資料＞

資料名（　　）
理　由（　　）

＜講義内容の難易度について＞　①やさしい　②ふつう［適当］　③むずかしい

理　由（　　）

＜資料カルテ（調書）の作成について＞　①やさしい　②ふつう［適当］　③むずかしい

理　由（　　）

＜作業量について＞　①多い　②ふつう［適切］　③少ない

理　由（　　）

Q3. 講座参加前は「文化財」についてどのようなイメージをもっていましたか？

Q4. 講座参加後は「文化財」のイメージは変わりましたか？　①はい　②いいえ

どのように変わりましたか？

Q5. 講座に参加する前と後では、自分の生活でなにか変わったことはありますか？（例：興味の幅が広がった、博物館に行って物の見方が変わった、など）　①ある　②ない　③わからない

理　由（　　）

Q6. 今後、文化財を災害から守るためにどういった取り組みが出来ると思いますか？
＜ご自身でできること＞

＜博物館や行政機関ができること（要望）＞

Q7. その他、感想など。今後どのような講座があれば参加したいですか？

いただいたアンケート結果は報告書に掲載します。ご協力ありがとうございました。　九州国立博物館

平成30年度アンケート用紙

謝　　辞

本事業の実施にあたり多大なるご厚意を賜りました、資料所有者の河北宣正氏に深く感謝いたします。
また、事業実施ならびに本書の作成にあたり、下記の皆様をはじめとする多くの方々にもご協力をいただきました。記して感謝の意を表します。（五十音順、敬称略）

うきは市教育委員会生涯学習課
うきは市文化財サポーター育成講座受講生のみなさま
うきは市立浮羽歴史民俗資料館
うきは市立図書館
日本通運株式会社九州美術品事業所
福岡県教育委員会文化財保護課

植野かおり、植野健造、江島香、狩野啓子、川越和四、河野未央、兒玉州平、
須佐菜月、竹田仰、平川新、福田和生、松下久子、森弘子、村山緑

独立行政法人国立文化財機構　文化財防災ネットワーク推進事業
文化財防災のための市民と協働する文化財調査モデル事業報告書

［発　行　日］　平成31（2019）年３月29日
［編集・発行］　九州国立博物館（文化財防災ネットワーク推進事業）
［印刷・製本］　株式会社　昭和堂

©2019　九州国立博物館
※本書の全部または一部を無断で転載・複製することを禁じます。

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

文化庁「平成 30 年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」